

らでいっしゅ号と産地研修

交流部会活動報告

7月7日、今年からRadicleの会の新しい会長として就任された片岡孝氏（(株)シード代表取締役）、副会長の耕田直樹氏（(株)グリフィス）と、当会五月女会長を交えての初の会合が催され、基本的な方向性が確認されました。

Report

■呼吸をあわせて

交流部会では、Radixの会会員とRadicleの会（らでいっしゅぼーやや代理店スタッフの会）会員が、互いを学びあうことによって「作る人」と「食べる人」の相互理解に結びつくと考えてきました。そして産地研修会や配送同乗など、“互いの交流”という視野をもち、連携を模索してきました。これは、お互いの現場を知るという意味でもよい機会となったようです。4月から6月にかけては、農産地域ブロック委員会の開催にあわせ、らでいっしゅぼーや各センター長、Radicle各地域支部長との顔合わせを進め、地域単位で様々な協力を行なう方向性を確認してきました（前号“25号”6頁参照）。

■作る人に学び、 食べる人に学ぶ

【産地研修会】Radicleの会では今年度より、各地域の支部（らでいっしゅぼーやのセンターごとに支部が構成されています）単位で年1回行なうことが計画されています。予定の産地研修会についてRadixにて協力する方針が確認されました。

【配送車同乗】「野菜のつくり方から家族まで、すべて会員さんにお伝えしているんだけど、私たちが会員さんのことを知る機会は少ないね」と、以前より要望の多かった企画。会で皆さんの要望をとりまとめたうえ、Radicleの会に提案し、これに協力いただけることを確認しました。

■できることはまだまだ

「同じ品物をずっと購入し続けてくださっている会員さんに感謝の気持ちを伝えられないか」と五月女会長。作り手にとっては願ってもなく、しかも普段から会員さん個々にお会いしているRadicleだからこそ可能なアイデアに、「作る人の品物を自信をもっておすすめするのは私たちの本望。取り組みが広がるいいきっかけになったら」と、片岡会長も乗り気です。

らでいっしゅぼーやを中心にして、作る人、届ける人、食べる人の交流の輪をもっと充実させたい。意気投合、ふたりの呼吸はぴったりの様子。充実のきざしが見えてきました。

（事務局・竹内）

交流部会活動報告

らでいっしゅぼーやの プレゼント企画に協賛 ～夏の陣～

らでいっしゅの会員さんへの感謝の気持ちをこめ、四季折々の花などを野菜ばれっとにしるばせたり……。これまで大阪センターで実施してきた桃の枝やひまわりプレゼントを、今年は全国の会員さんへも広げようという、らでいっしゅぼーやの企画に、Radixの会は協賛しています。

■おもいがけずにお花が？

らでいっしゅの看板ともいえる「野菜ばれっと」は、会員さんかららでいっしゅを信頼してくださっている証。その信頼に感謝し、もっとらでいっしゅを好きになってもらえるような特典。らでいっしゅでは'03年、5つのプレゼントを

企画しました。旬の花プレゼント春、夏。こどもの日、クリスマスカードプレゼントなどです。Radixの会は、このうち旬の花とクリスマスカードプレゼントに協賛します。そして7月～8月、旬の花プレゼント（夏）が実施されました。

過去4回行なった大阪センターのひまわりプレゼント（※1）。花の咲くタイミングを逃してしまったり、親戚の方に管理をお願いしたら勝手に農薬を撒いてしまい、出荷できなかつたりと、野菜のお届け以上に難しかったとのこと。

今年は全国の会員さんにお届けする予定でしたが果たしてその成果は…？ 関東・神奈川地区では、花の栽培や規模に見合う生産者がなかなか見つからず、北海道地区では候補に上がったバラの農薬基準が合わず断念。残念ながら今回実施可能となったのは、これまでの実績を誇る大阪センターのみとなりました。お届けできたのは紀の芽の会さんから約1800本と丹波有機の会さんから約2000本。

丹波有機の会の木寺さんに送られてきた、うれしいお便り。



木寺さんのひまわりありがとうございました。夏に届いたのは縁のつぼみだったのにこんなにきれいに咲きました。いつも素晴らしいお野菜ありがとうございます。



ある日ばれっとを開けたら花が入っていた。ほっと嬉しい瞬間。きっとその日は、その花の向こうに見える生産者さんに思いを馳せることでしょう。Radixの会としてもぜひこの交流を応援していきたいと思えます。

（事務局・島田）

※1：耕作放棄地や輪作のため夏場休ませる畑にひまわりの種を蒔くことで、土が元気を取り戻し、見る人々の心が和み、子どもたちがはしゃぎ回る…そんな「らでいっしゅぼーやWESTひまわり計画」は4年前にスタート。